

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田、補助・後藤 写真・北村、後藤
山行番.	NO.2026「会創立30周年記念山行」
日時	2024年01月20日(土) 曇のち雪のち大雪
山域	ハツ・西天狗岳西尾根(2646m)
コース	1/19 下土狩 13:00-茅野・民宿「やつがね」(泊) 1/20 宿発 5:00-唐沢鉱泉 6:30-第一展望台 8:34 -第二展望台 9:00~西天狗 9:40-東天狗 10:06 -中山峠 10:53-黒百合ヒュッテ(昼食) 10:59-分岐 12:02-唐沢鉱泉 12:58
標高差	唐沢鉱泉約1865m~西天狗2646m=約781m+30m
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい
吹雪の天狗岳山頂は無人だった	
参加者	後藤(77)、加藤、勝又(3名往復)、北村、山田敬(2名周回)=5名

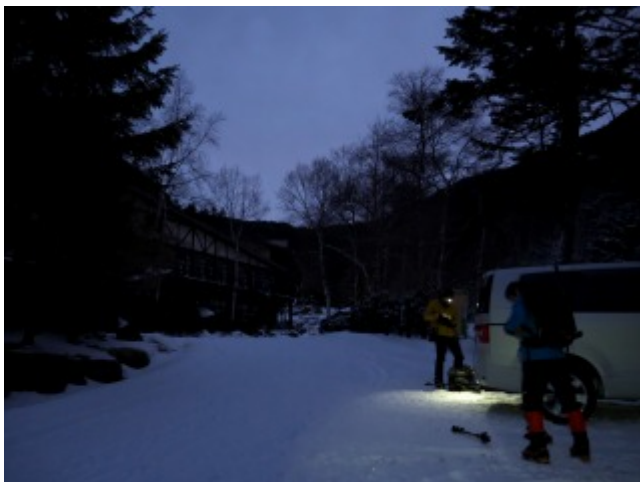
今期、冬・雪山第二弾。山は、19・20日、悪天候予報だったが、実施希望が強く、悪天候想定で実施。19日、後藤・加藤・勝又は、前泊先発、山田敬は、前泊後発。北村は、20日、当日発だった。

前泊先発は、翌早朝、北村と合流場所を下見した。合流は、「ハヶ岳エコーラインを北上し、尖石(とがりいし)考古館西」交差点を右折し、「尖石遺跡駐車場」だった。

無事、下見を終了し、夕食を摂りにビーナスラインを彷徨するが、例によって、茅野市周辺の飲食店は、何故か「17時開店」が多い。結局、かなり下り入店した店は、ソバしかない。それでは、明日の熱糧にならないので、熱燗・beerのみで、再び彷徨。

そのうち17時になり、結局、ソバ以外のメニューもある店に入った。山田敬に連絡すると、既に諏訪ICに来た。店を知らせ合流し、豪華?!な夕食を済ませた。

民宿は、安価でジジ・ババが経営。大きな風呂に入り温まり、イッパイやって就寝。ただ、後藤は布団が小さく難儀だった。



20日、唐沢鉱泉(北村)



雪はマアマア(北村)

20日、4時起床、宿5時発。集合時間前に、尖石駐車場に着いたが北村が見えない。携

帯すると、すぐ近くに居る様な感じだが、双方、土地勘も無くて、埒が明かない。結局、時間が勿体ないので、北村には、「唐沢鉱泉に向かって、桜坂分岐で待機して」を伝えた。そこで合流し、後藤車で唐沢鉱泉に上るつもりだった。

しかし、桜坂分岐に北村車はなかった。何処に行ったのか。半信半疑で、上って行くと、最初の大きなカーブの上に一台の軽があった。北村車だった。いい調子で上って来たが、後藤車に連絡するため停車したら、再び上れなくなったという。

早朝暗い中、知らない土地で、同じ様な名称場所での合流の難しさを感じた。大反省。



北村車（下山時、撮影）

車を皆で押したが、低温で滑ってしまい、結局、ダメだった。しかし、時間はドンドン経過する。仕方がなく、ここに置くことになった。大きな事故でなく、幸いだった。全員で唐沢鉱泉着。

前日の天気予報では、土曜の午後から日曜日は天気が崩れる予報。できるだけ、その前に下山できるよう出発時間を1時間前倒しする。登山開始地点の唐沢鉱泉の駐車場も土曜日にも関わらず停まっている車の数が少ない。おそらく、天気予報で山行を回避した人も多いただろう。

出発準備中、ソロ女子が抜いて行った。後藤が「一人ですか、大丈夫？」とお声がけ。彼女は、「ヤバければ無理しない」で、笑って出かけた。

どうせ黒百合ヒュッテからだと思ったが、この方、実は、下山後、「ヤママップ」を閲覧したら、「リーたん」のハンドルネームで投稿していた。西天狗まで約2時間半、帰着は、11時半だった。超速い。過去の記録もエグい記録が多かった。「天狗岳の女天狗」??

雪はどっさりではないが、それなりについているので、唐沢鉱泉の出発時からアイゼン装着。6時半頃に出発。天気は薄曇りで、風はない。高度2150mの西尾根に出るまで300mくらい一気に登る。途中、早くも下山してくる男女ペアと遭遇。

聞くと午前3時に山行を開始して天狗岳でご来光を見て下って来たという。日の出の時刻は山頂の天気は良かったようだ。「今日の天気予報なら、それくらい早く出発するのが正解かもね」と後藤が話す。

樹林帯で風もないので、少し登ると体が温まりウェアが暑くなる。足を止めて少し脱ぐ。



西尾根に乗った



アベックさん



(北村)

しばらく進んで西尾根近くなると、低木が多くなり、風も出てくる。すると、今度は寒く感じるので、防寒着を着込む。そんなウェアリングをこまめにしながら、西尾根に出ると、赤岳、阿弥陀岳、横岳、硫黄岳などが間近に見える。この迫力が八ヶ岳だ。青空バックではないが、八ヶ岳のオールスターが見えて満足だ。

しかし、第一展望、第二展望と進むにつれて雲が多くなり、そのうち西天狗しか見えなくなった。山頂直下は岩場で風も強くなり、雪も舞い出した。予報通り天気は崩れていく。



後藤・加藤・勝又が上る（北村）



山田・北村が上る



晴天時の西天狗岳と西尾根 2022/03/05 人物＝井上、遠藤信子（沼津労山）実際は強風

登りが厳しくなったら、「れい！」「ほー！」「れい！」「ほー！」と、皆で声を合わせて気合を入れる。そして、9時40分に山頂に到着。残念ながら、強風、かつガスで眺望なし。

隣の東天狗でさえ見えない。記念写真を急いで撮って、私と北村は東天狗へ。後藤・加藤・勝又は往路を戻って、唐沢鉱泉で合流する予定。

西天狗を下り、東天狗を見上げると、数人、東天狗から黒百合ヒュッテ方面に降りる人が小さく見えた。登山者を見るのは出発直後の男女ペア1組以来だ。それくらい今日は登山者が少ない。東天狗に到着しても、山頂に人はなし。吹雪がさらに強くなってきたので、登頂記録の写真を撮って、すぐに黒百合ヒュッテをめざす。

黒百合ヒュッテについた頃には、お腹もすいて、体も冷えているので、小屋の中に入ろうかと北村と話し合ったが、雪はどんどん降ってきているので、ゆっくりせず、簡単に昼食を済ませ、先を急ぐことにした。

黒百合ヒュッテから唐沢鉱泉までの行程では、何人もの人とすれ違う。テン泊予定の大荷物の3人組、10名くらいの大パーティ、ソロの人、すれ違う人は様々だ。そんな人達と挨拶を交わしながら、ずんずん下る。すれ違った人で一番驚いたのは、自転車を担いで登っている人だ。

最初に自転車を見つけたときは、サイクリングの途中に道に迷ったのかと思ったが、声をかけて聞いてみたら、雪道やアイスバーンを下ることを楽しむために、それ専用の自転



西天狗岳山頂（北村）



東天狗岳（北村）

車を担いで登っているとのこと。

自転車のタイヤはスパイクタイヤで、重量は9Kg。担ぎやすいようにサドル下のフレームが工夫されている雪道専用バイクらしい。秋に雨乞岳で、落ち葉道を下ることを楽しむマウンテンバイクのライダーに会ったので、その冬バージョンか。



第二展望台



雪まみれや



バイク野郎



黒百合ヒュッテ

バイクの値段も 100 万円近くするらしい。今日は自転車を担いで黒百合ヒュッテまで行って、明日、自転車に乗って唐沢鉱泉に下るか、分岐から渋の湯温泉の方に行くか考え中らしい。いろんな雪山の楽しみ方があるなど、しみじみ思いながら、下っていたら、あっという間に唐沢鉱泉についてしまった。到着は 13 時前。結果的には西尾根組とそんなに到着タイムは違わなかった。



今回の積雪量

2022/03/05 1m くらい? 欄干まで積雪がある



西天狗岳（北村）

同じ時間に到着したことは良かったが、雪がどんどん降って来て、我々は、ここから車で山を下ることが心配になった。なぜなら、朝の出発時に、後藤車と当日到着の北村車と連絡がうまくとれず、4WD でない北村車が唐沢鉱泉近くまで登ってきていたからだ。

果たして、積雪の道でうまく動き出し、車体を下りの方向に変えられるか? うまく動き出せなかったらレッカー車だ。

心配したが、何とか皆で力を合わせて、北村車の脱出は成功した。今回の山行で一番ハラハラしたのは、この帰りの車の下山だった。

(敬称略)